

薬草園だより

令和3年9月 秋号 No.89

時折吹く風に秋を感じる薬草園



秋の七草と生薬

「七草」といえば、食して楽しむ 七草粥の「春の七草」の方が身近に感じる人が多いかもしれませんが、「秋の七草」は秋の訪れを教えてくれるとても華やかな植物が選ばれており、鑑賞して楽しむといわれています。そして春の七草と同様に薬草がほとんどです。

七草の種類も人によって様々ですが、万葉集に収められている山上憶良の二首一組の歌が始まりだそうです。

「秋の野に 咲きたる花を 指折り（およびをり） かき数ふれば 七種（ななくさ）の花」

「萩の花 尾花 葛花 撫子（なでしこ）の花 女郎花 また藤袴 朝貌（あさな）の花」

秋風吹く野原で山上憶良が子供たちに花々の名前を教えようと一緒に指折り花の名前を言っているような、微笑ましい光景が浮かんできます。今回は山上憶良の秋の七草に一つ一つ触れていきたいと思います。

～萩（ハギ）～ 山萩（ヤマハギ）

Lespedeza bicolor Turcz. マメ科

和漢名：胡枝子（コシシ）

部位：根茎

成分：murrayanine

薬効：鎮痛

用途：家畜飼料

草かんむりに秋と書く、まさに秋の草です。

ハギの名前は「はえぎ」を意味し、冬の間枯れたようになった古株からでも芽が出る生え芽が、ハギになったといわれます。

お彼岸にお供えをするおはぎの由来になっています。

「秋風は 涼しくなりぬ 馬並めて いざ野に行かな 萩の花見に」 柿本人麻呂 万葉集

～薄（ススキ）～ 尾花（オバナ）

Miscanthus sinensis Andersson. イネ科

和漢名：芒茎（ボウケイ）

部位：茎、根

成分：methyl cellulose

薬効：(民) 婦人のめまい、のぼせ

用途：カヤ葺き材料

すすくすくと伸びていく木という意味の

「す(く)す(く)き」からきたという説や、神楽の鳴り物の「鈴の木」から由来する説などがあります。また、尾花の名称は花穂が獣の尾に似ていることが由来です。お月見には欠かせない草です。「道の辺の 尾花が下の 思い草 今さらさらに何をか思はむ」 詠み人知らず 万葉集

～女郎花（オミナエシ）～

Patrinia scabrisaefolia Fisch. オミナエシ科

和漢名：敗醬（ハイショウ）

部位：根のついた全草

成分：ligulifloren

薬効：清熱活血、解毒排膿

用途：(漢) 薏苡附子敗醬散、腸癰方



「おみな」は「女」を意味し、「えし」は古語の「へし（圧）」で、美女を圧倒する美しさから名づけられました。また、餅米で炊くご飯(おこわ)のことを

「男飯」といったのに対し、「粟ご飯」のことを「女飯」と

いっていたが、花が粟つぶのように黄色く粒粒していることから「女飯」から「おみなめし」、「おみなえし」となった、との説もあります。名前の通り、圧倒的な美しさで人々を魅了する花で古代より多くの歌に詠まれていますハイショウ（敗醬）といわれるのは乾燥すると腐った醤油のようなにおいを発することからついたといわれています。

「名にめでて 折れるばかりぞ 女郎花 われおちにきと 人に語るな」 僧正遍昭 古今和歌集

～撫子 (ナデシコ)～ 河原撫子

Dianthus chinensis L. ナデシコ科
和漢名：瞿麦(クバク)、石竹(セキチク)
部位：地上部、種子
成分：eugenol
薬効：清熱利水、通淋
用途：(漢) 瞿麦散



可憐な日本女性の清楚さを表現した大和撫子が由来というだけあってよく見ると本当に美しいです。「枕草子」の中で草花の中で一級品は撫子、と清少納言も著しいです。

「なでしこは 咲きて散りぬと 人は言へど 我が標めし野の 花にあらめやも」 大友家持 万葉集

～藤袴 (フジバカマ)～

Eupatorium fortunei Turcz. キク科
和漢名：佩蘭(ハイラン)
部位：全草
成分：p-cymene, nerol acetate
薬効：清熱化湿
用途：(漢) 佩蘭芩朴湯



花言葉は、「ためらい」「躊躇」。小花が少しずつ咲いていくことに因んでいます。奈良時代に渡来し、香水欄とも呼ばれ、古くから香草として、葉を湯に入れたり、衣服や髪につけたといわれています。「宿りせし ひとの形見か 藤袴 忘れがたき香に匂ひつつ」 紀貫之 古今和歌集

～葛 (クズ)～

Pueraria lobata (Wild.) Ohwi マメ科
和漢名：葛根(カッコン)【局】
部位：根
成分：puerarin、Daizidin
薬効：辛涼解表、解痙止痛
用途：(漢) 葛根湯



葛餅、葛切りなどで親しまれている葛。全草余すところなく使用できる葛ですが近年、女性ホルモン様作用があることで注目されています。

「延ぶ葛の 絶えず偲はむ 大君の 見しし野辺には 標結ふべしも」 大伴家持 万葉集

～桔梗 (キキョウ)～ 朝顔 (あさごう)

Platycodon grandiflorum (Jacq.) A.DC. キキョウ科
和漢名：桔梗(キキョウ)【局】
部位：根
成分：platycodin D
薬効：排膿止咳、鎮咳去痰
用途：(漢) 桔梗湯



朝顔の花とは、当時の時代背景や植物の特徴などから桔梗を指すといわれています。また、キキョウは昔神仏に捧げ吉凶を占う運命を案ずる花とされていました。明智光秀の家紋に用いられたことでも有名で、とても身近な植物であったようです。

日々、桔梗の花を観察していると、花の中央の変化に気がきます。①はじめは雄しべが雌しべにピッタリとくっついていて、この時雌しべはまだ未熟で受粉できる状態にはなっていません。

②花粉を出し切った後、雄しべは枯れてしまいます。

③やがて雌しべが開き受粉できる状態となります。こうして雄しべと雌しべの成熟の時期をずらすことで、なるべく他の花と受粉し、遺伝子の多様性を維持する自然のしくみになっています(雄性先熟)。

「朝顔(桔梗)は 朝露負ひて 咲くといへど 夕影にこそ 咲きまさりけれ」 読み人知らず 万葉集